

各関係機関長 殿  
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター  
病害虫防除所長  
(公印省略)

平成20年度農作物病害虫発生予察情報について

平成20年度農作物病害虫発生予報及び月報を発表したので送付します。

平成20年度農作物病害虫発生予報第2号

平成20年5月15日  
徳 島 県

I. 果樹

カンキツ

そうか病

1) 予報内容

発生程度：「少」、発生量：平年よりやや少ない(前年並)

2) 予報の根拠

- (1) 5月前半の巡回調査では、発生を認めなかった(平年同時期の生圃場率は21.1%、発病度は0.4%)。
- (2) 5月9日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または低い確率ともに40%と予想されており、発生に中立的である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生園では落花期に薬剤防除を行なう。

黒点病

1) 予報内容

発生程度：「少」、発生量：平年並(前年並)

2) 予報の根拠

- (1) 5月前半の巡回調査では、春葉での発生を認めなかった(過去9年の同時期も未発生)。
- (2) 5月9日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または低い確率ともに40%と予想されており、発生に中立的である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 枯れ枝、剪定枝は園外へ持ち出して処分し、病原菌密度の低下に努める。
- (2) 落花期に薬剤防除を行い、その後1ヶ月、または降水量200～250mm毎に防除を励行する。

かいよう病

1) 予報内容

発生程度：「少」、発生量：平年よりやや多い(前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

- (1) 5月前半の巡回調査では、発生圃場率は100%、発病度は0.4で、平年(42.7%、0.3)より発生面積が多かった。
- (2) 5月9日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または低い確率ともに40%と予想されており、発生に中立的である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 罹病枝のせん除を行ない、常発園や罹病生品種園では防除を励行する。
- (2) 風当たりの強い園では防風対策を講じる。

## ヤノネカイガラムシ

### 1) 予報内容

発生時期：平年並(前年並)

### 2) 予報の根拠

(1) 県予察圃場での第1世代幼虫の発生初確認は5月14日であった(平年：5月13日，前年：5月13日)。

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤による防除適期は，IGR剤の場合，発生確認の10～15日後，有機リン剤の場合，35～40日後の時期である。

## ミカンハダニ

### 1) 予報内容

発生程度：「少」，発生量：平年より少ない(前年より少ない)

### 2) 予報の根拠

(1) 県予察圃場(5月7日調査，無防除区)における調査では，発生を認めなかった(平年同時期は寄生葉率が9.2%，1葉当たり生息虫数が0.2頭)。

(2) 5月前半の巡回調査では，発生を認めなかった(平年同時期は発生圃場率が49.5%，寄生葉率が9.0%)。

(3) 5月9日発表の1ヶ月予報では，気温は平年並または低い確率ともに40%と予想されており，やや発生抑制的気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には，充分な量の薬液を散布する。

(2) ミカンハダニは薬剤抵抗性が発達しやすいので，同一系統薬剤の連用を避ける。

## ナシ

### 黒星病

#### 1) 予報内容

発生程度：「少」，発生量：平年よりやや少ない(前年並)

#### 2) 予報の根拠

(1) 5月前半の巡回調査では，発生を認めなかった(平年同時期の生圃場率は12.3%，発病葉率は0.3%，発病果率は0.1%)。

(2) 5月9日発表の1ヶ月予報では，気温は平年並または低い確率ともに40%と予想されており，発生に中立的である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 防除暦に準拠し，初期防除に努める。

## アブラムシ類

### 1) 予報内容

発生程度：「中」，発生量：平年より多い(前年より多い)

### 2) 予報の根拠

(1) 5月前半の巡回調査では，発生圃場率は57.1%，寄生新梢率は14.4%で，平年(41.0%，3.8%)より発生が多かった。

(2) 5月9日発表の1ヶ月予報では，気温は平年並または低い確率ともに40%と予想されており，発生に中立的である。

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

(2) アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので，薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。防除の際には，充分な量の薬液を散布する。

(3) 薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので，同一系統の薬剤の連用は避ける。

## 果樹共通

果樹カメムシ類

1) 予報内容

発生時期：平年より遅い(前年より遅い)

発生程度：「少」、発生量：平年よりやや少ない(前年よりやや少ない)

2) 予報の根拠

(1) 今春の予察灯調査において、上板町では平年(4月26日)より遅い5月2日にツヤアオカメムシの初誘殺を確認した。

(2) 5月9日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または低い確率ともに40%と予想されており、やや発生抑制的気象条件である。

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝					浦					田丁				
	2008年	2007年	2006年	2005年	平 年	2008年	2007年	2006年	2005年	平 年	2008年	2007年	2006年	2005年	平 年
5.1	5	9	28	1	74	4	51	0	1	49					
5.2	8	12	172	1	192	2	26	72	0	88					
5.3		21	19	1	116		32	25	0	86					
5.4		7	895	4	145		27	143	1	47					
5.5		77	378	6	156		130	27	0	63					
5.6		9	475	3	188		42	32	0	38					
6.1		27	475	1	112		14	17	0	31					

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝					浦					田丁				
	2008年	2007年	2006年	2005年	平 年	2008年	2007年	2006年	2005年	平 年	2008年	2007年	2006年	2005年	平 年
5.1	11	4	22	0	27	5	7	0	2	23					
5.2	1	9	144	0	88	3	32	75	1	49					
5.3		16	2	1	59		18	0	2	38					
5.4		15	262	0	53		7	59	2	19					
5.5		57	201	0	100		23	17	1	25					
5.6		12	208	1	81		18	1	0	25					
6.1		14	73	0	30		8	4	0	52					

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行なう。
- (2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施する。
- (3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

II. その他

- 1) 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないようにして下さい。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水して下さい。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病虫害防除所  
テレホンサービス：0883(26)1199  
U R L：http://www.green.pref.tokushima.jp/boujyosyo/

○病虫害の発生予察情報，発生状況，防除法等をお知らせしています。